

平成28年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

| | | | | | | | |
|-----------|--|--|----|----|-----|-------------------------------------|-----|
| 指定期間 | ふりがな | さがけんりつさがのうぎょうこうとうがっこう | | | | ②所在都道府県 | 佐賀県 |
| 28～32 | ①学校名 | 佐賀県立佐賀農業高等学校 | | | | | |
| ③対象学科名 | ④対象とする生徒数 | | | | | ⑤学校全体の規模 | |
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 計 | 農業科学科・食品科学科・環境工学科 各学年1クラスずつの計9学級 | |
| 全学科 | 120 | 30 | 30 | | 180 | | |
| ⑥研究開発構想名 | 農業高校の専門性を活かした農業分野のグローバル・リーダーを育成する教育課程の開発 | | | | | | |
| ⑦研究開発の概要 | グローバルな農業問題について、地域と外国との比較を通して、課題を発見し、他者と協働して課題解決を目指す①『生徒協働型の教育プログラム』、国際社会で通用する汎用的能力の育成を目指す②『教科分業型の教育プログラム』、ICTを適切に活用することによって③『ICT利活用による主体的・協働的学習教育プログラム』の研究開発を行う。 | | | | | | |
| ⑧研究開発の内容等 | ⑧-1全体 | <p>(1) 目的・目標</p> <p>(目的) 「農業高校の専門性を活かした農業分野のグローバル・リーダーの育成」 リーダー像「国際的な視点で農業課題に取り組み、農業の発展に貢献する人材」</p> <p>(目標) 育成したい生徒像</p> <p>① 世界の農業事情を理解し、グローバルな見識を持って国際社会で活躍できる生徒の育成</p> <p>②他者と連携して世界の農業問題に主体的に取り組むことのできる生徒の育成</p> <p>③グローバルな視点を持って地域で協働できるグローバル・リーダーの育成</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>(現状分析と課題)</p> <p>①専門教育の実習等を通して生徒同士が協働する意識は高いが、主体的に行動する力や問題を論理的・批判的に考える力が不足している。</p> <p>②専門教科重視の教育課程のため、英語の授業時間数が不足しており、国際的な視野を身につけたい意識はあるが、英語に自信が持てない生徒が多い。</p> <p>③日常の授業で学習用PCを活用しているため、ICT機器操作は大部分の生徒が習熟しているが、レポートや論文をまとめたり、プレゼンテーションをしたりすることに自信がない生徒が多い。</p> <p>(研究開発の仮説)</p> <p>研究開発Ⅰ 生徒協働型の教育プログラムの開発 1年次の「SG農業と環境」、2・3年次の「SG課題研究」において、地域(佐賀)と外国(ベトナム、韓国、オーストラリア)の農業事情を調査・比較する探究活動を行うことで、農業分野のグローバル・リーダーを育成する。</p> <p>研究開発Ⅱ 教科分業型の教育プログラムの開発 課題研究以外の取組において、「コミュニケーション英語Ⅰ」や「コミュニケーション英語Ⅱ」に加え、「国語総合」、「世界史A」、「地理A」など多くの教科で、グローバル・リーダーとして必要な資質を育成する。</p> <p>研究開発Ⅲ ICTを利活用した主体的・協働的学習支援プログラムの開発 ICTを適切に利活用して主体的・協働的に学習する力を育成する。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>①SGH事業資料集を作成し、実践発表会などで配布・説明し、内容の普及を図る。</p> <p>②学校ホームページにおいて随時実践内容を紹介する。</p> <p>③農業高校に対して学校農業クラブ代議員会等において実践報告を行う。</p> | | | | | |

| | | |
|---------------------------|--|---|
| | | <p>④ 県内高校に対して実践発表会へ案内、実践内容の普及に努める。</p> <p>⑤ 学区内中学校に対して体験入学や学校説明会でSGH事業を紹介し、中学生及びその保護者や中学校関係者に対しても実践内容の普及を図る。</p> |
| <p>⑧ -2 課題研究</p> | | <p>(1) 課題研究内容 佐賀大学等と連携し、地域と外国をフィールドとして、グローバルな農業課題に対し、他者と協働して解決していくことで、グローバルな素養を身につけさせる教育プログラムを開発する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 研究開発Ⅰ 生徒協働型の教育プログラムの開発 (ア) 「地域の農業事情の研究」【STEP1】 1年次の「SG農業と環境」において、テーマとした農業問題に関する地域の農業事情について学習し、地域愛を育み、地域の課題を解決する姿勢を育成することによって、実践力を伴った地域創生に貢献できる人材を育成する。 (イ) 「外国の農業事情の研究」【STEP2】 1年次の経験や知識を応用し、海外現場研修等を通して海外の農業事情及び課題等を幅広く学習し、国際的な視点を養い、柔軟な思考力や発想力を身につける。 ※海外現場研修（海外フィールドワーク） 日本の農業と外国の農業との比較を通してグローバルな視点を持つ農業指導者を育成する。参考とする外国 ベトナム(H28-29)、韓国(H30-31)、オーストラリア(H32-33) (ウ) 「地域と外国の比較による課題解決の研究」【STEP3】 1年次に学習した地域と、2年次に学習した外国の農業事情より、地域農業活性化策や訪問国への提案などを行い世界でシームレスに活躍する人材を育成する。 (エ) 外国人講師による課題研究の英語プレゼンテーション基礎セミナー 課題研究での英語プレゼンテーション作成能力を育成する。 (オ) 外国人留学生及び外国人農業研修生等と農業事情について英語での交流会 多文化・異文化について理解し、積極的にコミュニケーションをとる姿勢を育成する。 (カ) 外部検定試験を用いた課題研究における英語力向上への取組 ※発表会、報告書、成果物等で自己評価、ポートフォリオ評価、外部評価等を取り入れ多面的に検証評価し、次の取組の意欲喚起に活かす。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 総合的な学習の時間3単位のうち、2単位をSG課題研究で代替する</p> |
| <p>⑧ -3 上記以外</p> | | <p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 研究開発Ⅱ 教科分業型の教育プログラムの開発 「コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ」に加え、「国語総合」、「世界史A」、「地理A」など多くの教科で、グローバル・リーダーの素養として必要とされる汎用的能力を養成する。 研究開発Ⅲ ICTを活用した主体的・協働的学習支援プログラムの開発 課題研究を支援ながら、ICTを活用し、主体的・協働的学習力を育成する。 ※報告書、成果物等で自己評価、ポートフォリオ評価など多面的に検証評価する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法 (ア) SGインターナショナル部による生徒の自主的・自治的活動を推進 (イ) ICTを活用した遠隔教育システムの構築 (ウ) 交流校とSGHの取組についての情報交換と評価依頼 (エ) 世界を舞台に農業分野で活躍する企業等との連携によるトップリーダー研修会の開催 (オ) オーストラリア農業視察研修（農業部会主催）への参加 (カ) 地域へ向けて活動報告（近隣の中学校、県内の高校、農業関係者を対象） (キ) 佐賀県教育委員会と連携した取組の実施（県全体のグローバル人材育成に貢献）</p> |
| <p>⑨ その他 特記事項</p> | | <p>特になし</p> |